



TITLE:

「さまよえるオランダ人」伝説に描かれる「女性」--オランダ東インド会社の興亡そしてヴァーグナーの「女性(異性)による救済」--(発表要旨)

AUTHOR(S):

川西, 孝男

---

CITATION:

川西, 孝男. 「さまよえるオランダ人」伝説に描かれる「女性」--オランダ東インド会社の興亡そしてヴァーグナーの「女性(異性)による救済」--. 2019

ISSUE DATE:

2019-10-26

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/244679>

RIGHT:

発表要旨 川西孝男（東京大学史料編纂所／京都大学人文科学研究所）

題名：「さまよえるオランダ人」伝説に描かれる「女性」—オランダ東インド会社の興亡そしてヴァーグナーの「女性（異性）による救済」—

要旨：「さまよえるオランダ人」は大航海時代の船乗りたちに伝わる、なかば女人禁制の伝説であり、史実とは関わりのない幽霊船怪奇談とされてきた。本論は、この伝説が 17 世紀に黄金時代を迎えたオランダ東インド会社（VOC）の興亡の歴史と密接に関わっていること、そしてこの「伝説の流布」に、VOC と海上覇権を争ったイギリス東インド会社（EIC）の存在があったことを例証しながら「伝説の変遷」を追い、そこに描かれた女性像を考察したものである。そこには、時に数年にわたるモンスーンによる遠距離航海に出た男を待つ女の身に起こる様々な悲劇が記される。一方、男も幾多の海難に遭遇する中、自らの拠り所である船舶を女性に例えて謡ったように、女の身を案じて思慕に暮れた。

この彷徨の伝説に救済の思想を持って臨んだのが 19 世紀の劇作家リヒャルト・ヴァーグナーであり、（さまよえる）男性の救済は女性によってなされるとした。この「女性（異性）による救済」を通じて、価値観の彷徨の時代とも言われる現代社会におけるジェンダーへの救済の視点に及びたい。

付記：本発表は東京大学史料編纂所における特定共同研究「モンスーン文書・イエズス会日本書翰・VOC 文書・EIC 文書の分野横断的研究」（通称：モンスーン・プロジェクト、松方冬子班）の研究成果を取り入れている。